

登山月報



ガッシャーブルムI峰(8,068m)



第9回リードユース日本選手権南砺大会 2021 開催報告	2
第149回 Mountain World	5
新連載 Enjoy Climbing	6
新刊図書紹介	7
第14回山岳スキー競技日本選手権大会 開催報告	8
I S M F 臨時総会 2021 の報告	10
I F S C 総会 2021 報告	10
令和2年度日山協山岳共済会事業報告	11
J M S C A、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

第9回リードユース日本選手権南砺大会2021開催報告

第9回リードユース日本選手権(L J C 2021)を5月29日、30日、富山県南砺市にある桜が池クライミングセンター(S C C)にて開催した。2021年度の大会スケジュールの検討では、L Y Cはオリンピックが近くCOVID-19はある程度取まっているとの想定でしたが、第4波真只中での開催となりました。今年のB J C 2021より、来場者のP C R検査など感染防止に努めてきましたが、今回は更に変異株(感染力、重症化が高い)への対応として“3密防止”よりレベルを上げ、“1密でも防止”に切り替えた対策(下記参照)を展開しました。

また、今回よりユース選手権のカテゴリーを「ジュニア」、「ユースA」、「ユースB」とし、若年層のスポーツ障害、大会至上主義の抑制などから「ユースC」は別途大会を設定することにした。

1. 競技

参加(選手226人、同行133人、来賓2人、メディア2人)

ユースB 女子49人、男子66人

ユースA 女子33人、男子30人

ジュニア 女子22人、男子26人

女子決勝では、壁から壁への渡りがなかなかうまくいかない状況が続くが、ユースAで森奈央が丁寧な登

りで38+まで高度を上げ優勝。ジュニアでは、谷井菜月と平野夏海が渡りを難なく成功し46+を獲得。予選1位の平野がカウントバックで優勝を勝ち取る。

男子決勝では、ユースBの安楽宙斗が圧巻の登りを披露。男子も渡りまでのパワー系ムーブと渡ってからバランシーなムーブが展開する内容。それを、迷わない登りで完登し優勝を勝ち取る。安間佐千の再来、



安楽宙斗



上村悠樹



平野夏海



谷井菜月

女子ユースB					男子ユースB				
順位	氏名	BIB	高度	予選	順位	氏名	BIB	高度	予選
1	抜井 美緒	WB23	36	4	1	安楽 宙斗	MB25	TOP	1
2	武石 初音	WB05	29+	1	2	小俣 史温	MB10	40+	2
3	村越 佳歩	WB38	29+	8	3	猪鼻 碧人	MB18	38+	5
4	小田 穂香	WB02	22+	3	4	藏敷 慎人	MB54	34+	4
5	藤村 侃奈	WB46	22+	5	5	杉本 侑翼	MB02	30+	6
6	関川 愛音	WB32	22	2	6	上原 玄武	MB46	30+	7
7	山 真奈実	WB24	22	8	7	谷井 和季	MB29	30+	9
8	永嶋美智華	WB49	21+	6	8	和田 樹怜	MB56	28	8
9	後藤 奈々	WB20	21+	7	9	吉川 武志	MB63	25+	9
10	中野 春風	WB13	18+	8	10	隅谷 楽	MB22	21+	3

女子ユースA					男子ユースA				
順位	氏名	BIB	高度	予選	順位	氏名	BIB	高度	予選
1	森 奈央	WA04	38+	1	1	上村 悠樹	MA10	TOP	2
2	高尾 知那	WA11	38	7	2	村下 善乙	MA12	39+	1
3	小池 はな	WA33	37	3	3	田中 裕也	MA18	30+	5
4	小倉 紗奈	WA29	33+	4	4	三根生仁慈	MA15	30+	9
5	美谷島ももか	WA28	32+	2	5	篠沢 諒	MA11	30+	10
6	小林 舞	WA13	30	9	6	鈴木 音生	MA21	30	3
7	竹内 亜衣	WA07	27+	5	7	関口 準太	MA28	28+	7
8	吉田 清華	WA12	27+	6	8	大貫 羽玖	MA02	21+	4
9	葛生 真白	WA08	27+	8	9	松岡 玲央	MA03	21+	5
10	伊東 そら	WA09	21	10	10	田中 慧樹	MA08	21+	8

女子ジュニア					男子ジュニア				
順位	氏名	BIB	高度	予選	順位	氏名	BIB	高度	予選
1	平野 夏海	WJ02	46+	1	1	川又 玲瑛	MJ12	42+	7
2	谷井 菜月	WJ17	46+	4	2	百合草碧皇	MJ10	40+	1
3	久米乃ノ華	WJ13	29+	2	3	抜井 亮瑛	MJ02	39	8
4	青柳 未愛	WJ03	29+	3	4	佐野 大輝	MJ19	35+	6
5	柿崎 未羽	WJ11	28+	5	5	鷹見 真洋	MJ17	30+	2
6	栗田 湖有	WJ19	28+	7	6	大政 涼	MJ11	30+	5
7	滝口 萌	WJ14	28+	8	7	伊藤寛太郎	MJ08	29+	3
8	菊地 咲希	WJ15	21+	6	8	山口 賢人	MJ01	21	3
					9	梶 晃悠	MJ16	21	9

日本のAdam Ondraと言われる逸材。今後が楽しみである。

そして、ユースAでは、上村悠樹が完登。渡り前のオーバーハング帯でもあまり足を切らない登りは、体幹の強さを感じる。安楽とは違った登りで優勝。

2. 運営

今期に入り、4月開催予定のBYC 2021(倉吉)を延期した。第4波の始まり、室内での開催、参加人数に対して施設の換気能力が十分でないことがあり、延期を判断した。桜が池センターに関しては、施設の感染防止レベル(ウォームアップエリアの換気能力、競技は屋外)が高く、富山アラートステージ2.5の状況にあったが、各関係機関と調整のもと開催に漕ぎつけることができた。

この開催には、多くの検討を重ね、そして無事開催し、終わることができた。開催に理解と協力頂いた開催地、施設、富山県山岳連盟、そして選手、スタッフ、協力会社、協賛様、放送関係者のおかげとっております。改めてここに感謝申し上げます。

2-1. 主な1密防止例

①室内環境(密接、密閉防止)

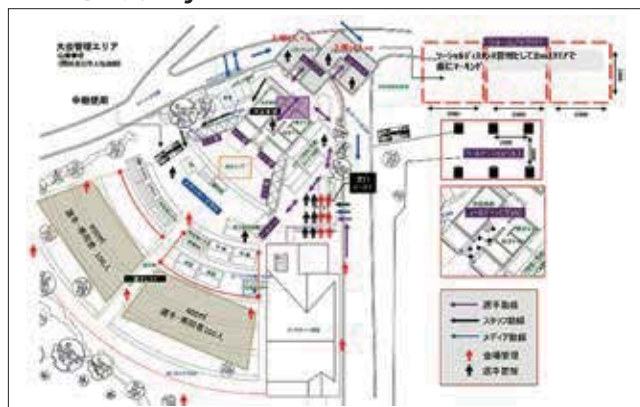
- 一人当たり4㎡でのSD管理
(2階6人、3階14人)
- 換気30㎡/時人の確保
- CO2濃度600ppm以下管理(実際平均482ppm)

②カテゴリー分離運営(密集防止)

- ウォームアップ30分/人での入れ替え

5月29日(土) 予選							
男子	Touth B	Touth A	Junior	女子	Touth B	Touth A	Junior
07:30-08:30	受付67人			07:30-08:30	受付51人		
08:00-11:30	ウォーミングアップ			08:00-11:30	ウォーミングアップ		
09:00-	競技(6h05m)			09:00-	競技(4h45m)		
13:50-14:50		受付32人		12:30-13:30		受付34人	
14:20-15:50		ウォーミングアップ		13:00-14:30		ウォーミングアップ	
16:20-		競技(2h55m)		14:00-		競技(3h05m)	
17:00-18:00			受付27人	15:50-16:50			受付22人
17:30-19:00			ウォーミングアップ	16:20-17:20			ウォーミングアップ
18:30-			競技(2h30m)	17:20-			競技(2h30m)
-21:00	終了予定			-19:40	終了予定		

2-2. 会場layout



2-3. Marketingデータ

- 来場：選手226人、同行133人、来賓2人、メディ2人
- 中継：YouTube
決勝Live 女子450～500(一週間後11,000)
男子 400(一週間後8,500)

2-3. スタッフコメント

①チーフルートセッター 伊藤剛史



LYC 2021のルートは、スピーディー&ダイナミックをコンセプトとしました。いろいろなクライミング要素(オールドスタイル+新しい要素)をしっかり組み込み、小手先でなく、自力のある人が、確実に高度を稼げるルートを目指しました。ユースの場合、よく想定とちがったムーブで登る選手がでてきますが、セッターがシュミレーションしたムーブで登るように、レスト、持ち替えがないようにしました。

また、安全面で成長期にあるユース世代を意識しカチの使用を減らすなどの配慮もしました。

今回、ユースCを別大会として、セットに集中できた面もあり、満足できるセットができたと思っています。ただ、セッター作業として、どうしようもない部分もありますが、深夜作業など労働環境として改善できたらと感じています。

②会場管理(北陸電工メンバー)

この大会に携わるまでは、スポーツクライミングに対する知識は皆無に近い状況だったため、新たな取り組みとして面白かった。

③副サービスマネージャー 中橋沙羅

今回の開催にあたり最も心を砕いた点は、地元の理解が得られるかどうかでした。

JMSCAの開催決定を待ち、付近住民への説明会を開催。総員の承認をもって開催の意向を示した次第です。このコロナ渦で開催にご理解いただきました地元の皆様、協力していただいたスタッフの皆様には感謝してもしきれません。

この経緯をもってして迎えたユース選手権は当日228名の選手をお迎えし、選手、帯同者、スタッフがす

べてPCR検査を行うという厳重な管理で執り行われました。賢明な判断のもと、多額の費用をかけていただきましたJMSCAにも御礼申し上げます。

今回の大会でコロナの感染の報告がないことが、なによりの成功ではないでしょうか。次回は賑やかな歓声に囲まれた開催となることを切に願います。

2-4. メイキング映像

▶ <https://youtu.be/mZRh56maWuk>



(実行委員長 村岡正己)



第149回 Mountain World

バルンツェ西壁 コロナ禍をすり抜けて

池田常道

コロナ禍に翻弄されるなかで強行された春のネパール登山だった。全面禁止になった昨年の借りを取り戻そうと、ネ政府は当初から今季の登山解禁を認めて許可を発給、いまやガイド登山界の主役となったネパール公募隊を初めとする大小のチームが8000m峰を中心に入山した。

コロナ禍が山中まで及ぶ前から活動したアンナプルナでは、4月中旬に70名近くが登頂に成功したものの、5月にずれ込んだエヴェレストでは、クライアントだけでなく肝心のシェルパまでが感染、ヘリでカトマンズに運び出される患者が続出した。

それでも、5月中旬に150名が頂上を陥れたのを皮切りに約400名が頂上に立ったが、無酸素登頂に成功したのは一人もいなかった。今季エヴェレストでの死者は、公募隊クライアント3名、シェルパ1名だった。なお、ルート工作隊のカミ・リタ・シェルパは5月7日に登頂、25回目のエヴェレスト頂上をモノにした。

中国チベット登山協会（CTMA）は、中国人だけに許可を発給。BC手前に検問所を設けたり、頂上でネパール側からの登山者と交じり合わないよう握手・抱擁を禁止したが、コロナに感染する危険が高まったとして、8300mまで固定ロープを張った時点でチベット側からの登山を禁止した。

なお、シーズン末期に来襲したサイクロンがもたらした悪天候が下山途中の公募隊を直撃した。この嵐を切り抜けた登山者を待っていたのは、国際空港閉鎖に追込まれたネパールから如何にして脱出・帰国するかという難問だったが、それはまたべつの話になる。

＊

エヴェレストの喧騒をよそに、チェコのマレク・ホレチェクとラドスラフ・グロフのペアはバルンツェ北峰（7129m）西壁をアルパインスタイルで登り、粛々と自分たちの登攀を終えてみせた。

ホレチェク（46）は、これまでにガッシャブルムI峰（8080m）南西壁、チャムラン（7321m）北西壁を登ってピオレドールを受賞してきたが、今回はパートナーのズデニェク・ハークと分かれて、ラドスラフ・グロフと組んだ。ハークが今回、ヤロスラヴァ・バーンス

キーとゴーキョ谷のカンチュン・シャル（6030m）北壁に行くことになったからだ。

5月22日に取り付いたホレチェクらは、12時間にわたるハードなミックス壁を越えて、最初の雪田直下の氷壁にレッジを切ってビバーク。ルートの難しさは翌日も続いたが、稜線まで100mの地点で幾分ましなビバークをした。

ところが、翌日は降雪となり、稜線に出るところか、急峻な氷壁と一連のガリーに苦労させられた。チリ雪崩の頻発する岩場を後にして抜け出すことができたのは次の日を迎えてからで、そこは稜線まで50mのところだった。ベンガル湾のサイクロン「ヤース」がもたらした雪はやまず、6900mで小さなテントを張った岩棚の周囲を絶え間なく雪崩が落ちた。

食料は尽き、疲労に加えて空腹と渇きが2人を苦しめた。ホレチェクは毎晩、衛星電話でBCのクルーに報告を入れたが、降雪で視界の失われた状況を「まるで地獄だ」と言ってきた。幾分天候が回復したのは29日の朝を迎えてからで、「これで、やっと下れる」と伝えてきたものの、電池が切れれば連絡手段はなくなってしまふ状況に陥ってしまう。

標高差1100mを一気にBCまで下りたペアは5月30日の朝、ヘリでカトマンズまで運ばれた。

＊

なお、ホレチェクが当初北西壁と伝えてきたこの壁は、正確に言えば西南西壁に当たる。



バルンツェ西壁を登るホレチェク＝グロフ・ペア
同隊撮影

増本亮&さやかの Never Ending Journey ⑦

ヨセミテのフリークライミングのベストシーズンはあつという間に終わる。ほんの10年ほど前は9月頃から良いコンディションになったと聞くけれど、ここ最近では10月中旬から後半になって、やっと朝晩の気温が下がり、日陰の面は状態が良くなって来る。でも太陽の力はまだまだ力強く、日中南向きは壁は熱したフライパンのように熱々だったりもする。と思えば、11月中旬から後半にかけて天候が次第に不安定になっていき、気づくと気温がグッと下がり雪が降り始める。もちろん天候の変化は年によっていろいろだけれど、総じてヨセミテ、特にエルキャピタンのベストな時期は長いとは言えない。

夫はサラテのフリークライミングを予定していたけれど、昨年同様今年も、その貴重なベストコンディションの時期は私が目一杯使ってしまった。フリーライダーを登り終え、エルキャピタンから下山してすぐに雪が降り始めた。真っ白になっていくヨセミテ渓谷。そしてエルキャピタンにも雪が積もり始め、ここでのクライミングは極めて困難な様子。でもまだシーズンが終わってしまったとは言えない。天気が回復すれば雪も溶け、岩が乾き、クライミングができることもある。トミー・コールドウェルだって、ドーンウォールを完登したのは真冬の1月だ。

でも今は無理だ。ここは思い切って一旦ヨセミテを離れよう。そうして向かった先は、ネバダ州のレッドロック。太陽の光が降り注ぐ中、半袖になり久しぶりのスポーツクライミングを楽しむ。でももちろん心はヨセミテに残ってきており、毎日天気予報をチェックし、ヨセミテに戻る日をうかがっていた。でも、なかなか好天は訪れてくれそうもない。12月も約1週間が過ぎ、北米滞在時間も少なくなってきた。これ以上の時間が過ぎれば、サラテのトライは難しくなる。ヨセミテの天候は不安定なままだったが、僅かな可能性を信じて、ヨセミテに戻ることを決めた。

私は夫にも渾身のクライミングをしてほしかった。夫のことは考えず、思い切り自分のクライミングをしておいてこんなことを言うのは自分勝手だとは思っているけれど、私は夫にも今年こそは全力で自分のクライミン



サラテヘッドウォール2ピッチ目をフォローする増本さやか

グをしてほしい。現実はその甘くないということもわかりながらも、天候が、そして岩の状態が良くなっていますように、と祈るような気持ちでヨセミテに向かった。そして、改めて自分のクライミングを犠牲にして私のサポートをしてくれた夫のありがたさを身にしみて感じた。

(さやか記)

エルキャピタンの上部には雪がたつぷりと降り積り、雪解け水が岩壁を滝のように流れていた。サラテルートのように 岩壁の凹状の部分を通るようなラインは特に流水が多い。エルキャピタンの山頂は平らで雪が積もりやすく、その雪が解けきらない限り流水は無くならないだろう。

だが、サラテの核心部であるヘッドウォールと呼ばれる部分は前傾したフェースに走るクラックを通るため、その部分は流水の影響を受けていないようだ。

地上から壁の頂を目指していくのがクライミング本来の姿だが、この状況ではそれは不可能に近い。ヘッドウォールまでの部分はフリーライダーと共通していて何度もそこは通っている。私は壁の上部から下降してヘッドウォールだけを試みるという苦渋の決断を下した。それは相当な妥協であるし、スタイルとしては最悪だ。それで登れたからと言って納得できるはずもない。かと言って何もせずにここを立ち去る気にはなれなかった。今まで蓄えてきた熱い気持ちをぶつける対象を求めていた。こんな発想を生んだのは今の自分とエルキャピタンの距離感にあると思っている。それは寂しい事実でもあった。

エルキャピタン山頂までの道のりも積もった雪で気が抜けなかったが、幸い私たちにはパタゴニアで使用するクランボンなどの雪山装備があったため、問題なく山頂へとたどり着くことができた。

ヘッドウォールは15mの13a、35mの13a、15mの13bの3ピッチで構成されている。広大な花崗岩の一枚岩を約65mにわたり一本のクラックが貫いており、

そのラインは神々しさを放っている。

1ピッチ目と3ピッチ目はそれほど苦勞せずに解決することができた。最大の難関は2ピッチ目だった。その長く美しいクラックはヘッドウォールの象徴と言ってもいい。フィンガークラックとフェイスムーブで始まり、クラックはハンドサイズへ。徐々に狭くなるクラックはシンハンドとなり最後の3mで突然フィンガーサイズとなりそこが核心部となる。クラック以外のホールドは乏しく誤魔化しはきかない。クラッククライミングの神髄とも言えるような内容だった。一つ一つの動きを解明することは早い段階でできたが、それを落ちずにつなげることは、果たして今の自分にできるのか全く自信を持つことができなかつた。それでもこの神髄と向き合い自分の力を試せることに大きな喜びを感じていた。

天候は好天と悪天が短い間隔で交互に訪れ、その短いチャンスを狙ってエルキャピタン山頂へ上がった。こんな時期にここで登るクライマーなど当然皆無だ。二人きりのエルキャピタン。こんな贅沢はなかなかない。

2ピッチ目は、トライを重ねるごとに少しずつ手が岩に馴染んでいった。はじめは全く力が込められなかつたジャミングに徐々に力が伝わるようになっていった。その感覚はクラッククライミング独特のもので、私にとってはそれが洗練されていくと、そのルートと自

分が一体となったような気にさせてくれる神秘的なものだ。一度も落ちずにそのクラックを登れた時、岩が自分を受け入れてくれたとでも言うような、そんな気持ちになる。

ヨセミテでのクライミング最終日、サラテヘッドウォールは私を受け入れてくれた。それは900mのうちのとった65mに過ぎないが、私のこれまで培ってきたクラッククライミングの全てを捧げた集大成と言えるクライミングだった。スタイルとしては全く納得できない。だがこの世界最高のクラックと言っても過言ではないラインと静かに向き合えたことは、私にとって大いなる財産である。次こそはサラテルートとしてこのヘッドウォールと対峙することを誓い、エルキャピタンを後にした。

フリーライダーにしる、サラテヘッドウォールにしる、そこには冒険性と呼べるものはほとんどなかつたと言っている。冒険性を排除したからこそできる自分の限界への挑戦というものもある。純粋に厳しいロッククライミングに自分の力がどれだけ通用するのか、ヨセミテではそこを追求していた。そういった意味では今回のヨセミテは手応えのあるクライミングができたと思う。そして私たちはこの経験を発揮できる冒険的な環境を求めていた。それが次の目的地、南米パタゴニアだった。

(亮記)

新刊図書紹介



『未踏峰と三江併流』 ～ヒマラヤの東、最後の辺境～

中村 保 著

魅惑的な6,000m峰が重畳と連なるヒマラヤの東。チベット高原を源流とする五本の大河(揚子江(長江)、メコン、サルウィン、イラワジ、ツアンポー・ブラマプトラ)が僅か165kmの間に接して南北に流れ、峡谷から山嶺までの標高差が3,000～5,000mもある深い峡谷を成し、天険の要害を形成している。

この最後の辺境に残された無数の未踏峰と、三本の

大河に挟まれた世界遺産「三江併流地域」を、長年の踏査によって纏めた著者集大成の写真集。

本写真集は、「パート1・未踏峰」、「パート2・三江併流」の二部構成で編集されている。著者はこれまでに『ヒマラヤの東 山岳地図帳』(2016年1月刊)、『ヒマラヤ越え空撮写真集』(2019年5月刊)を出版しており、本書と合わせてここに三部作が完結した。

ナカニシヤ出版 2021年4月15日発行
オールカラー/菊倍版(290 x 218mm) / 226頁/
上製/カバー装/定価8,800円(税込)

著者：中村 保(なかむら たもつ)

1934年東京生まれ。一橋大学で先鋭登山を目指す。1957年北穂高岳滝谷グレポンを芳野満彦と初登攀。1958年石川島重工業(現・IHI)入社。1961年に一橋大学アンデス遠征で、プカヒルカ北峰はじめ三つの初登頂を果たす。1990年から「ヒマラヤの東」(雲南・四川・東チベット・青海・ミャンマー)の踏査を始め、2019年までに中国南西辺境へ42回足を運び成果を内外に広く発信する。その業績が評価され多くの賞を受賞。ヒマラヤン・クラブ名誉会員、日本山岳会名誉会員他多数。

第14回山岳スキー競技日本選手権大会 開催報告

昨年コロナ渦で開催できなかった山岳スキー競技日本選手権大会が、今年4月3日(土)、4日(日)に、長野県栂池高原において、第14回目となる山岳スキー競技日本選手権大会を開催した。この競技は、2020年1月にスイスで開催されたユース冬季五輪において実施種目にもなっており、今まさに国際連盟(I S M F)は世界への普及を図っている。その動きに合わせて、今年の日本選手権でも、年齢カテゴリー分けをI S M Fの規定に合わせてシニア(21歳以上)、ジュニア(20～18歳)、ユース(17～15歳)に分けて実施し、また種目もインディビジュアル種目とバーチカル種目(登りだけの種目)の2種目を実施した。

参加申し込みは56名。バーチカルに38名、インディビジュアルに54名の参加となった。

3日(土)は午前中に、シーズンオフで閉鎖されたゲレンデを使用してバーチカルのレースを開催。天候は快晴。始業前の Gondola 乗り場に選手は集合し、そこで健康チェックを行い、ゼッケンを受け取り Gondola に乗る。その間にもスタッフは途切れたコースに雪を集めて整備をする等、コース準備を入念に行い対応した。

レースは9:00スタート。標高差400mのコースを、トップ選手は21分台で登る。男子はこの種目を得意とする前回優勝の加藤淳一選手がトップでゴール、2位は今年からシニアに上がってきた若手の島徳太郎選手、3位にベテランの小川壮太選手が続き、上位をトレランのトップ選手達が占めた。女子の優勝は今回初参加の高村貴子選手、2位に上田絢加選手、3位は前回この種目優勝の滝澤空良選手が入り、こちらも上位を20代のスカイランニングの日本代表選手が占めた。レースは1時間かからずすべての選手がゴールし無事に終了した。

午後は、観光協会の建物をお借りして、3階で翌日実施のインディビジュアル種目の受付を行った。今年はコ



スタートをMCで盛り上げる

ロナ渦のため、通常行う大会の開会式、バーチカルの表彰式は中止にした。ブリーフィングも行わず、SNSや掲示板を使用してコースの状況を選手に見てもらおうにした。

前回大会では、インディビジュアル種目のコースは短縮もなく、フルのコースで実施できたが、今年は3月にまとまった降雪が無く、雪解けも早い事によるコース状況と、レース当日の天候悪化が見込まれるため、選手とスタッフの安全を考慮して、コースを短縮する判断を下した。

4日(日)の朝、山は厚い雲で覆われ天候悪化が早まり雨模様。山小屋に泊まっている雪崩管理担当者やスタッフと連絡を取り、前日に決めた短縮したコースをさらに短縮して実施した。

定刻9:30に競技スタート。八木原会長のスタートの合図のもと、キャンセルを除いた54名の選手がスタートしていった。シニア男子では累積標高1170m、沿面距離にして11.8km、女子は累積標高885m、距離7km。

今年のコース状況は、雨の中大変滑りにくいものとなった。緩傾斜ではスキーが滑らず多くの選手が苦労していた。男子1周目の順位は、1位島徳太郎選手、2位



インディビジュアルのスタート直後



バーチカルのスタート風景



ゴール後のシニアトップ7

遠藤健太選手、この2人はスカイランニングでも活躍している20代の選手です。続いてこの大会で優勝経験もある加藤淳一選手が3位で通過、現在2連覇中の小川壮太選手、過去7連覇を成し遂げた藤川健選手はやや遅れて2周目に入っていき、後ろの選手達もそれに続く。両脚が強まる中トップでゴールに戻ってきたのは、島徳太郎選手、1時間12分40秒でゴール。2位に1分46秒の差を付け、独走の嬉しいシニア初優勝となった。2位にベテランの藤川健選手。3位加藤淳一選手、4位遠藤健太選手、5位小川壮太選手となり、2位以下4人が1分以内に入るといふ大接戦の展開となった。藤川健選手は最終トランジットに5位で入ったが、最後の滑走区間で順位を3つ上げるといふ離れ業を見せつけてくれた。女子は3連覇中の星野緑選手が欠場したが、前日のバーチカルで優勝の高村貴子選手がここでも強さを見せつけ54分16秒で初出場初優勝。2位に滝澤空良選手が入り、3位上田絢加選手となり、上位3人はみな1時間を切る好タイムでのゴールだった。

その後、次々と選手達はゴールし、1人のリタイアする者もなく、無事にレースを終えることができた。悪天候にもかかわらず、ゴール後の選手達の表情は、競技中に見せる険しいものとは打って変わって、達成感に満ち溢れたすがすがしい笑顔を見せており、レースを存分に楽しんでくれたんだと感じさせられた。



インディビジュアル シニア男子上位3人



初優勝の島徳太郎選手のゴール風景

今回、コースは短縮となったが、レースの厳しさや難しさは、気象条件、コースコンディションに左右されやすいのはこの種目本来のものであるので、日本選手権ではそのクオリティは維持したいと考えている。しかし、競技普及の意味では、出来るだけ多くの選手に完走してもらい、競技の面白さを知ってもらいたいと思う部分もあり、また来年の課題にしたいと思う。

今大会は、56名の参加者でした。過去最高の71名の

●バーチカル順位

カテゴリー	距離/標高差	1位	2位	3位
シニア男子	2km/400m	加藤 淳一	島 徳太郎	小川 壮太
シニア女子		高村 貴子	上田 絢加	滝澤 空良
ジュニア男子		駒井 夏人	萩原 悠己	—
ユース男子		宮下 環	山田 朝陽	—

●インディビジュアル順位

カテゴリー	距離/標高差	1位	2位	3位	
国際規格	シニア男子	11.8km/1170m	島 徳太郎	藤川 健	加藤 淳一
	シニア女子	7.0km/885m	高村 貴子	滝澤 空良	上田 絢加
	ユース男子		駒井 夏人	笹川 拓也	萩原 悠己
ショート	男子	鈴木 淳平	七宮 勝弘	田中 義朗	
ピギナー	男女	3.2km/200m	池田 美貴	山田 朝陽	山田 陽遂



インディビジュアル シニア女子上位3人

参加があった前回大会からコロナ過とは言え、大きく人数を減らす事となった。今後は過去に参加した方達に継続して参加してもらえるように、また新規の参加者を増やす事を考えなくてはならないと思う。しかし、今回明るい材料としては10代、20代の若い参加者が増えてきたことだ。若い彼らはトレラン、スカイランニングやクロカンといった競技の出身者が多く、それなりの体力走力も持っている。今大会の彼らの活躍は、この山岳スキー競技が競技として認識され普及してきたことの証で

あると同時に、新しい世代が育ち始めたことを感じさせるものであった。

将来的には、トップアスリートばかりでなく、Ski Mountaineeringというスタイルを広め、山や大会を楽しむ一般愛好家を増やしていかなければならないと考えている。今後も業界とも協調しながら、この競技の発展に取り組んでいきたいと思っている。

(山岳スキー委員会 倉橋俊行)

ISMF臨時総会2021の報告

5月7日、日本時間午後10時からZoomによるオンライン会議にてISMF臨時総会が開かれた。一国から1アカウントのみの参加と限定されていたが、日本からは丸副会長と私が参加することで事前に了解を取っていた。しかし、会議開始から10分後に、丸副会長の接続が切られてしまい、折衝したが復旧はならず笹生のみでの参加となってしまった。ISMF事務局技術陣の問題であった。翌日になって会長より謝罪のメールが来た。

臨時総会は参加は35ヶ国(内投票権保有国は34)で成立し、まず現状報告と今後の将来像、それに向けた行動計画の概要が提示された。

どの項目も大きな反対はなく項目ごとほぼ90%のNFの賛成で可決された。

本年9月24日、25日の顔を合わせての定期総会でさらに詳細な行動計画が確認され実施となることが確認された。

現状報告では、会長から財政については「2019 / 20年シーズンは6万8千ユーロの赤字であったが、有力NFからの4万ユーロ余の寄付とIOCからの補助金5万ドル、それにスイスの銀行からの無利子融資によってなんとか帳尻を合わすことができた」との現状報告があった。しかしこのままでは次シーズンに向けた新規プロジェクトへの新規事業は出来ない状況であり、新しく広告代理店、スポンサー探しが喫緊の課題となっている。ただ、代理店についてはある程度見通しはあるようなニュアンスではあった。

競技関係では、コロナ渦の状況にも関わらずなんとか世界選手権、ワールドカップなどが実施にこぎつけることができたことと報告された。

今後について日本からもなんらかの支援策を提示したいところではあるが具体的には、財政的な貢献、あるいは大口のスポンサーの紹介などが考えられる。

また、ヨーロッパ中心の競技でなく世界的に人気ある競技であることを示す意味で日本でのワールドカップ大会開催への取り組み表明があると大いに歓迎されるはずである。加えるに2026年ミラノ・コルチナ冬季大会での種目化については2022年の北京大会の時、総会で決定される予定だが、JMSCAからIOCに対し山岳スキーの正式種目化を支持するよう要請することを表明することも大きな貢献と評価されることは確かである。

ケーラー会長と理事会は、組織改革、財政基盤整備、競技普及、メディア戦略の再構築等々、各担当理事を決めて9月の総会に向け行動をはじめるとのことで具体的な工程表を提示しているため9月24日、25日にヨーロッパで開催予定の総会での議論が待たれる。

そのほかこちらに関心のありそうなところでは、2024年韓国でのYOGでの種目化については、韓国まで出向いて交渉したが種目化実現には至らなかったとのこと。現在は、2026年のミラノ・コルチナに向け全力で取り組んでいるとのことであるが、一部NFからFISから山岳スキーの種目化を快く思わない雰囲気があるのでこの噂について質問があったが、会長はこれを強い口調で否定した。

(山岳スキー委員会委員長 笹生博夫)

IFSC総会2021報告

(2021年4月23日～4月25日、オンライン形式)

2021年総会は、IOCのバッハ会長の挨拶から始まった。このコロナ禍の状況において、迫る東京五輪への期待を込めた挨拶であった。2020年ワールドカップの開催では、IFSCの取り組みがこのコロナ禍でもスポーツ大会が出来ることを証明し、多くの可能性や希望を与えてくれた。そして、このコロナ禍の中でIFSC会長が示すリーダーシップに対して感謝を表した。

続いて投票では、93ヶ国の加盟NFからCroatian Mountaineering Associationが除名となり、新たにCroatia Sports Climbing FederationとPuerto Ricam Federationの加盟が可決された。

その後、マルコ・スコラリスIFSC会長が挨拶した。今も続くパンデミックに対応するIOC会長に対しての感謝の言葉から始まり、新たに選ばれた各NFのニューリーダーの紹介、外岩で命を失ったフランスの若い選手への哀悼、コロナ禍で開催されたWC杯ブリアンソン大会、そしてオリンピックの延期など、さまざまな対応を強いられた2020年を振り返られていた。そして「痛みは我々の不屈の精神によって、きっと希望の光を見ることが出来る。」と強い意志を持ち続けることを唱えられていた。

挨拶の中で、IFSCにとって多くの労力を費やされたCAS仲裁にも言及された。「良いニュースとしてJMCAとテーブルを持ち共に仲裁判断を公表した。」と触れられていた。そして2020年の様々な出来事や将来についての話を終え、冗談を交えながら、去り行く役員に対し、多くのテレコンファレンスなどでしか会えなかったからだと思いますが、労いと共に「早くマスク無しで皆さんに会える日が来ることを期待している」という言葉で挨拶を締めくられた。

倫理委員会からIFSCが高まるスポーツクライミングの価値をさらに高めるために様々な試みを行ってきたことが、興味深く報告された。IFSC各役員、各NFのリーダーなどから集約したインタビューの内容を分析し、IFSCやスポーツクライミングが世の中で大きな価値を持ち始めた今、将来に向け成長を続ける上で、目指すべき方向や大切にすべき点について触れられた。JMCAが置かれている状況に似ていると思うが、ダイバーシティ、サステナビリティ、ガバナンス、透明性などで、特に興味深く感じたのは、スポーツクライミングや国際大会のアイデンティティの確立について触れられていた事だ。これまで余り話されていなかったことだが、重要になってくると感じた。

スポーツデパートメントからは、東京五輪の進捗状況、パリ2024の準備状況、World Games 2025がアラバマで開催されることに触れ、パリと同じフォーマットで開催されるとのこと。

パリのフォーマットは、今の各種目の掛け算方式だとタイが出る可能性が高く、パフォーマンスベースでのポイントを足していく方式が有力とのこと。さらに今年から採用されるはずだったワールドランキングから各国の枠が上下する形は2022年からス

タートすることになった。

ワールドカップ、世界選手権、大陸選手権、コンチネンタルカップなどを大会のレベルなどに応じてランキングをつける方法を検討しているようだ。

それからIFSCアカデミーを創設して、選手のセカンドキャリア、コーチ、ジャッジ、メディカルなど様々な方面で教育プログラムを組んでいく計画を発表した。

最終日には、IFSCの役員選挙があった。会長選は対立候補者が無く、マルコ・スコラリス会長が再選。副会長選には、本会から小日向徹氏が立候補。現職の強みでの存在感もあり、オリンピック競技の関わりで、スポーツデパートメントや組織委員会など多岐にわたる分野で活躍されている氏への期待が非常に大きいこと、それにアジア地区のNFが一致団結してくれたこともあって、ドイツやスイスの欧州勢を抑えてトップ当選を果たした。

最後に今回は、2年連続のWEBによる総会であったが、投票や質疑応答の流れは向上し、大変スムーズな総会だった。2022年はアメリカのソルトレイクシティ、2023年はシンガポールで総会を開催するが決議され、閉会となった。

(副会長 平山ユージ)

令和2年度日山協山岳共済会事業報告

1. 総括

令和2年度の山岳共済会加入者は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大幅に減少し、46,446人に留まった。

Web加入者は、781人(前年対比656人減)で、半減してしまった。

トレラン保険の加入者は、509人(前年比52人減)、クライミング保険の加入者は、214人(前年比42人増)で微増した。

総保険料収入に対する総保険金支払い割合の損害率は、37.48%と前年比で1.34ポイント上がったが、優良割引率は15%が適用され、保険料の割引率は、前年同様の約46%の割引となった。

2. 共済会加入者数(令和3年3月31日現在)

46,446人(前年比6,570人減)

(内訳)

個人加入 : 32,036人(前年比3,126人減)

登山 : 10,073人(前年比1,263人減)

ハイキング : 21,289人(前年比2,537人減)

団体加入 : 14,395人(前年比3,385人減)
登山 : 8,163人(前年比1,534人減)
ハイキング : 6,183人(前年比1,900人減)
※共済会のみ加入者 : 15人(前年比59人減)

3. 共済会事業

- ア 共済事業に対する交付
交付申請 : 13件(前年比15件減)
- イ 疾病死亡弔慰見舞金の交付
交付申請 : 4件(前年比2件増)
- ウ 位置探知器「ヒトココ」のレンタルサービス
貸出 : 6件(前年同件数)
- エ 会員制の検索ヘリサービス「ココヘリ」の加入
推奨
- オ アヴァランチ・トランシーバーの貸出 : 4件

4. 営業推進事業

- ア 加入促進対策について
 - ①各岳連(協会)への登山振興費還付(保険事務手数料還付金)について
令和2年度の還付金総額(令和元年度分)は、7,116,668円。(ベストスリーは、東京約77万円、神奈川県約55万円、埼玉約53万円。)各岳連(協会)には、是非、共済会担当者を決めて頂き、岳連(協会)の講習会等で、参加者に共済会への加入を推し進めて頂きたい。加入者が多くなれば還付金も増え、財源が豊かになる。
 - ②令和2年度のJMSCAへの支払は、共済会業務委託料3,400万円、代理店からの広告料240万円を合わせると3,640万円。これが外向けに広告が打てない足枷になっている。
 - ③前年度未加入者への案内再送付は、5,002通発送して589名が再加入(再加入率11.8%)。これもコロナ禍により前年比3%減少した。
 - ④スポーツライミング保険、トレラン保険のチラシを作成して配布した。
 - ⑤HPのリンク

(一財)日本トレイルランニング協会、(NPO)北丹沢山岳センターへのリンク。

- ⑥『岳人』バーター広告掲出
引き続きバーター広告を掲出。(『岳人』2020年4月号から2021年3月号)
- ⑦高体連登山専門部『登山部報』、HAT-J機関誌等への広告出稿。
毎日新聞旅行のカタログ『世界の山旅・日本の山旅』への広告出稿と山岳共済会葉の混載発送(7月15,000部、11月5,000部、3月16,000部)
- ⑧山岳保険の告知として「ヤマテン」、「ヤマレコ」等へバナー掲出(継続)
- ⑨タウンニュースへの広告出稿(茅ヶ崎市エリア)
- イ その他

- ①共済委員会の開催
6/17(水)、9/4(金)、10/14(水)、11/16(月)、12/14(月)、1/21(木)、2/18(木)、3/16(火)
- ②山岳共済会の令和3年度用葉の見直し・デザインの検討・制作・発送した。
- ③令和3年度「山岳保険」案内の内容検討・制作した。
- ④減遭難キャンペーン、音声入り動画アニメ「そうよそうなの 遭難よ!」の拡散。
コロナ禍で思うような拡散活動が出来なかったため、音楽著作権を1年半延長した。



令和3年度
第2回理事会報告

日時 令和3年5月13日(木)
14:00~18:50

場所 Web会議

出席者 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、山口、水村、前田、六角、唐木、古賀、

山本、古林、小日向、安藤各理事。
中島、古屋各監事
同席者 ガバナンス委員会 恒石委員長

1. 開会

理事会に先立ち、八木原会長から「連休明けのコロナ感染者は、やはりいい方向にはいかなかった。我々にも難しい局面がくるかと心配している。先日、専任代理店の新役員の表敬を受けた。当協会も財政面で厳しくなる局面があるかと思うが、強い絆で連携を強化していきたいと伝えておいた。」と挨拶。

会長挨拶の後、事務局長から理事23名、監事2名、同席者1名の出席が確認され、事務局長がオンライン会議のホストを務めて議事に入った。

2. 議題

- (1)議案第1号 議事録の承認について
令和3年度第1回理事会議事録の承認について(事前送付済)
異議なく承認された。
- (2)議案第2号 令和2年度事業報告案について
資料に基づいて提案があったが、加筆修正を受けて、6月の理事会で承認を諮る

ことになった。

- (3)議案第3号 正会員の加入承認について
愛知県山岳連盟の伊藤智彦会長の正会員入会が諮られ、異議なく承認された。
- (4)議案第4号 顧問弁護士契約について
顧問弁護士として東京弁護士会の荻原崇広氏が諮られ、恒石ガバナンス委員長から推薦の補足説明があった。
異議なく承認された。
- (5)議案第5号 次期役員候補者(案)について
役員選考委員会の選考経緯について亀山選考委員長から報告され、恒石ガバナンス委員長からも選考過程について言及があった。その後、選考委員会の選考の在り方について質疑があり、最終的に選考委員会の選考過程は承認された。
次期役員候補として理事25名、監事2名が提案され、採決の結果、以下の結果を得た。(議長を除く投票数は22票。内棄権が3票)数字は賛成票(本人を除く)。

【理事候補】

水島彰治18、野村善弥19、小竹靖高19、古賀英年18、原 秀樹19、前田善彦18、高野孝子19、山口純子18、栗田季慎子19、濱田 豪19、加藤富之19、町田幸男18、丸誠一郎18、亀山健太郎18、小野寺 齊18、村岡正己18、安井博志19、小日向徹18、山本 謙 18、水村信二18、蛭田伸一18、相良忠麿18、六角智之18、笹生博夫19、青山千彰19

【監事候補】

中島正喜19、古屋壽隆19
以上、承認された次期役員候補者を令和3年度定時総会に諮ることになった。

- (6)議案第6号 2023年5月 I F S C W C 八王子について
資料に基づいて I F S C W C 2023 シリーズにアプリケーションを提出したい旨の提案があった。八王子市との覚書があり、八王子市は、開催したい意向とのこと。尾形専務理事から財源予測について補足説明があった。
全員一致で承認された。

3. 報告

- (1)報告第1号 令和3年度4月・月次会計報告

- 資料に基づいて要点の報告があった。
- (2)報告第2号 令和2年度決算途中経緯について
令和2年度の収支決算について監査前の概算報告があった。

- (3)報告第3号 I F S C 総会報告について
役員改選では、マルコ会長の再任、小日向副会長の再任、星多賀子強化委員が倫理委員に選任された事などが報告された。

ほかに C A S 仲裁、東京五輪・パリ五輪の準備状況、世界選手権など大会レベルに応じたワールドランキング、パリ・フォーマット、I F S C アカデミー創設、次回総会は米国・ソルトレイク、2023年はシンガポールなどの報告があった。

- (4)報告第4号 第7回 B Y C 開催日程変更について
鳥取県案では7月中旬を要望されているが、オリンピックも近く、他の予定もあり、7月中旬の開催は難しい。

- (5)報告第5号 第9回 L Y C 開催について(前出)
富山県や現地施設などと打合せした。富山県のコロナ禍はステージ2であり、それ以上になると中止の可能性が高い。状況を見ながら準備を進めていく。

- (6)報告第6号 第4回 C J C 開催要項について
4 / 30に盛岡市で実行委員会があり、開催する方向で動いている。

- (7)報告第7号 国内旅行傷害保険包括契約の申込み状況
5 / 10に締め切り15岳連から177事業、参加推定者4,318名の申し込みを頂いた。三井住友海上火災保険と包括契約の詰めを行っている。

- (8)報告第8号 賛助会員の動静
団体賛助会員として日本用品(株)が退会し、団体賛助会員は9社になった。個人賛助会員は5名加入、逝去6名、退会2名で合計107名。100名以下になると税額控除の適用が受けられなくなる。

- (9)報告第9号 日本山岳ガイド協会後援名義承認について
「百万人の山と自然『安全のための知識と技術公開講座』」の承認報告

- (10)報告第10号 I F S C W C ソルトレイク大会派遣選手について
ボルダリング第2戦(男子5名、女子5名)、ボルダリング第3戦(男子7名、女子6名)、スピード第3戦(男子4名、女子2名)を派遣。

- (11)報告第11号 近畿のブロック大会について
大阪府岳連からブロック大会の簡素化について問い合わせがあり、国体委員会と検討して対処する旨、報告された。

- (12)報告第12号 C級審判員合格者、B級昇格者について

C級審判員：別紙の52名(青森9名、岩手7名、栃木4名、茨城1名、東京3名、長野2名、静岡1名、愛知1名、三重2名、滋賀1名、大阪6名、兵庫3名、奈良1名、愛媛1名、高知4名、福岡4名、佐賀1名、長崎1名)

B級審判員：高橋雅代(千葉)、澤田翔(東京)、宮原里美(福岡)の3名。
以上、認定承認の報告があった。

- (13)報告第13号 山岳コーチ2の認定承認について
松本正和(広島)、久保田征治(広島)の2名。

- (14)報告第14号 登山指導常任委員について
以下の方々承認された。

指導委員長・野村善弥(埼玉)、副委員長、本郷利夫(東京)、副委員長・平野直子(千葉)、事務局長・廣川厚子(東京)、常任委員：工藤誠志(静岡)、小畑和人(大阪)、太田拓(神奈川)、伊藤靖雄(神奈川)、蛭田伸一(千葉)

* S C 指導常任委員は、変更なし。

- (15)報告第15号 アスリートパスウェイの戦略的支援委託事業完了報告について
資料に基づいて令和2年度委託事業の完了報告があった。

- (16)報告第16号 I S M F 臨時総会報告について
資料に基づいて、5月7日にオンラインで開催された総会の報告があった。

- (17)報告第17号 登山普及委員会委員会からのお知らせ
各ブロック及び高体連登山専門部に登山普及委員を選任して頂く依頼書の発送について報告があった。

- (18)報告第18号 競技大会経費について
令和2年度に開催した各競技大会(L J C, L Y C, B Y C, C J C, B J C, S J C, L J C)の予算と実績について報告があった。後半感染防止対策としてPCR検査、感染防止の消耗品、ゾーンコントロール仕様のレンタルなどが重なり予算をオーバーした。

- (19)報告第19号 役員派遣について
(5月14日(金)~6月6日(日))

- ①次期役員選考委員会 5月14日(金)
於：オンライン 亀山委員長他
- ②公認会計士決算確認 5月17日(月)~18日(火) 於：事務局会議室
尾形専務、相良理事、小野寺常務理事
- ③第9回 L Y C 南砺大会 5月29日(土)~30日(日) 於：富山県南砺市 桜ヶ池ケラ

寄 贈 図 書

会 報	(特非) 日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.82
	(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.517 202105
	福岡山の會	「せふり」No.404
	(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.55
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第633号
	日本山岳文化学会	「山岳文化」2021年 第22号
	(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2021年5月 No.376
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」6月号 No.556
	(一社) 埼玉県山岳・スポーツライミング協会	「SMSCA」NEWS No.70
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第354号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1092
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」5月号 第482号
	(公社) 日本山岳会	「山」2021年5月号 No.912
	(一社) 大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.226
おいらく山岳会	「山行手帖」No.737、No.738	
寄 贈 本	(公財) 日本スポーツ協会	「THE GOAL IS YOUR SMILE」
	(株) imajina	『「好き」の設計図ブランディングの原理原則』
広 報 誌	(公財) 日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアブレインニュース」Vol.129
	(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」6月号 No.888
雑 誌	(株) 山と溪谷社	「山と溪谷」6月号 No.1036
	(株) 日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2324号、第2325号、第2326号
新 聞		

イミシングセンター

八木原会長、平山・丸副会長、村岡理事

④監事業務・会計監査 5月31日(月)~6月1日(火) 於:事務局会議室
中畠・古屋両監事、尾形専務、相良理事、小野寺常務理事

⑤全国指導委員長会議 6月6日(日)
於:オンライン 蛭田理事他

4. 会務・役員派遣

(4月9日(金)~5月13日(木))

①次期役員選考委員会 4月9日(金)
於:オンライン 亀山委員長他

②次期役員選考委員会 4月12日(月)
於:オンライン 亀山委員長他

③国立登山研修所登山指導者用テキスト等編集委員会 4月14日(水)
於:オンライン 尾形専務理事

④第13回噴火時等の避難計画の手引き委員会 4月15日(木)
於:オンライン 尾形専務理事

⑤国立登山研修所友の会役員会 4月19日(月) 於:オンライン
尾形専務理事

⑥JSC委託事業アスリートパスウェイ会計監査 4月20日(火) 於:事務局会議室
富澤強化常任委員

⑦IFSC総会 4月23日(金)~25日(日)
於:オンライン 平山副会長、水村理事、(小日向理事)

⑧ISMF総会 5月7日(金)~9日(日)
於:オンライン 笹生委員長

表紙のこぼれ

今月号の表紙写真は、ガッシャーブルムI峰(8,068m)。1892年にバルトロ氷河を探検したイギリスのW. M. コンウェイは、この峰をヒドン・ピーク(隠れた峰)と名付けた。1934年スイスのG. O. ディーレンフルトら国際隊が南西支稜を6,300mまで試登。1936年フランスのH. セゴージュら6名が南東支稜の南支稜を7,069m峰まで近づいたが断念。戦後、1958年アメリカのN. B. クリンチら8名とパキスタン人2名が、34年の国際隊ルートを取り、7月5日にP. K. シェーニングとA. J. カウフマンがC5(7,150m)から東面のクーロアール登って初登頂。75年にはR. メスナーとP. ハーベラーは、アルパインスタイルで北西壁にルートを取り、2晩のピバークで第2登を果たす。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった。オリンピック開催まで50日を切ったが、可否はまだ見えてこない、選手の胸中は如何ほどかと思う。「チームジムスカ」ガンバ!

1990年から2020年にわたり30年間の活動を節目に、本年9月30日をもってHAT-J(ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト)が解散する。登山界を代表する山岳自然保護団体が時代の流れ、登山者の行動変容により存続が困難になったということか。JMSCAも公益になって2期目を迎える、組織改編半ばであるが今一度ベクトルを合わせる時期では。(広報担当 水島彰治)



トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第627号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和3年6月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



7月号
発売中

【特別編集】夏山 — 全国のおすすめ名山50 —

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格 12冊 10,560円(税別) 11,616円(税込)
年間購読なら 12冊 1冊分おトク! 9,680円(税別) 10,648円(税込)

年間購読特典

44サイズが入る! 岳人 トートバッグ
丈夫な帆布製でマイバッグとしても重宝します。
▶サイズ: 幅36×高さ37×マチ11cm

全国1,900カ所以上でご優待! 岳人カード
全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会 〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからもお申込みいただけます